

ひまわり



VoL.55

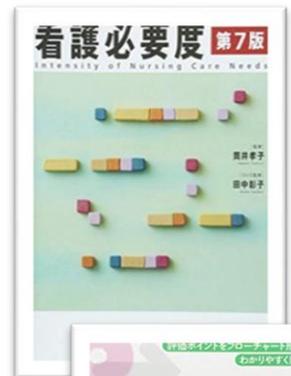
2018 重症度、医療・看護必要度研修スタートします！

師長室付師長 久留須 加寿美

8/26開催されました '18重症度、医療・看護必要度院内指導者研修を、各病棟1名、師長2名が受講しました。その後、9/13（講師：久留須）・10/11（講師：村尾）・11/8（講師：有川）・11/27（DVD研修）に評価者研修を行います。今年度は、病棟で実際に評価をする方は必須とし、手術室・外来・連携室は希望者とさせていただきます。また事前に学研e-ラーニング「看護必要度1・3」を受講してからの研修参加としていますので、必ず受講をお願いします。（研修に参加しない方も是非e-ラーニングをご覧ください）また、研修後の理解度確認のためテストを行います。皆さんが看護必要度に対して理解が深まり一発合格できるよう、講師を務める私たちも心して臨みたいと考えています。一緒にがんばりましょう。

【学研e-ラーニング 視聴テーマ】

1. 「重症度、医療・看護必要度とはなにか」
3. 「根拠となる看護記録の書き方」



ふれあい看護体験

（鹿児島県立川内高等学校 3年生）

担当：教育指導担当看護師長 久保 洋子



1回目：7月21日（土）



県立川内高等学校の3年生の学生さんが、7月21日（5名）、7月28日（4名）合計9名、ふれあい看護体験に参加されました。「コードブルー」の影響もあってか、医療職（特に看護師）希望が多く、目標をしっかり持って臨んでいる学生さんもありました。進路を決める大切な時期でもある事から、笑顔の中にも真剣に取り組む、興味のある医療職の現場を目に出来た事、患者とのコミュニケーションをはじめ、初めて体験する血圧測定や検脈に感動を覚えたり、新鮮な趣で体験に臨んでいました。

今回の体験が、将来の夢の実現に向けて、よいエネルギー源になってもらえることを願っています。

2回目：7月28日（土）



院内研修

新人基礎研修「KYT」を受講して

講師：副看護部長 長井 砂都美

7/5開催

4階東病棟 溝上

今回の研修では、KYTとは医療を安全に提供する為に、未然に危険を察知し、安全の先取りをしていく事を学びました。医療においてKYTは重要であり、変容していく現場にいる為、見えないものを見ようとする力が必要である事を知る事ができました。

多くの危険が潜んでいる医療の現場では、経験だけではなく幅広い知識・洞察力・想像力も必要となってくる為、日々の業務の中でも意識しながら関わり気付いていく事が大切だと考えます。



7/24開催

4階西病棟 安倍松

危険だと思う事は、一人一人違いがあり、様々な観点があるのだと学ぶ事が出来ました。また危ないと思う所と理由を話し合うことで、解決策も具体的になり、自分一人で考えるのではなく、話し合いながらどうすればいいか考えていく事がKYTに大切だと改めて学ぶ機会になりました。この学びを臨床でも生かしていく為に、「これで大丈夫かな？」や「何か、おかしくないか？」と思った時は、一度立ち止まり、ペアナースに確認していく事を心掛けていきたいと思ひます。

ラダーⅠ「看護研究」

講師：地域連携室 (PFM) 今村千佳子

6/7開催

4階東病棟 大山

看護研究についての講義を受講しました。学生の頃から現在まで看護研究は行ったことがなく、「どんな事をどのようにするのか」と疑問に思っていたが、今回の講義で少し、イメージをつけることができました。日々の看護の中で疑問を持ちながら看護を行うことで、看護研究の事例として生かせるのだと学びました。今回学んだことを、看護研究のメンバーとして携わる際には生かせるようにしたいです。



6/21開催

4階西病棟 宇都

今回は看護研究について研修がありました。今まで看護研究を行った事がなく、どのような研究テーマを上げれば良いか思いつけなかった為、今回の研修は勉強になりました。今まで看護を行っていく中で、とりあえず業務だからと行っている部分もありました。そうではなくて、何が患者さんの為になるのかという事を前提に、広い視野を持って、疑問に思ったこと、もっと学びを深めたい事など、今後看護を行っていく中で見つけていきたいです。

6/28 ラダーⅠ「実践」-メンバーシップ研修-

講師：教育指導担当看護師長 久保洋子 3階東病棟 毛利

今回メンバーシップ研修を受講し、詳しい意味や効果が明確になった研修でした。その中でも特に報告・連絡・相談は組織で発揮する一番の重要な事である事を改めて学びました。研修中、実践として約8人で伝言ゲームを2回行ったが1回目はメモを取る事・確認・復唱もできず焦りの中で引き継いだ為、明確な伝達が出来ませんでした。しかし、2回目は復唱しメモを取りながら落ち着いた環境で聞く事ができ、次のスタッフへ確実に申し送る事ができました。このように、言語的コミュニケーションの4領域である「読む・書く・聞く・話す」があつて、はじめて安心して確実な理解と表現ができ、メンバーシップ効果を果たすのだと理解しました。業務遂行する中で周囲の流れをみて、広い視野を持ち、患者やその家族に「ここに入院して良かった」と思ってもらえる看護を行っていきたく思います。



7/31 ラダーⅠ「倫理」 -事例から学ぶ-

講師：4階西病棟主任 福山亜須香 4階西病棟 高柳

今回は、看護倫理の研修を受講しました。一般的な倫理・生命倫理・臨床倫理について学びました。その中で私が一番印象に残ったのは、臨床倫理でした。生命倫理（人の命は長らえさせることが優先）とは異なり臨床倫理とは、その考え方が必ずしも当てはまらずに人間は体だけで生きているわけではなく、それぞれの人生、個々の生き方があると学ぶ事ができました。

患者様自身の希望・思いに添うことが出来るように日々、看護を行っていこうと思ひます。

8/7 ラダーⅠ「倫理」-グループワーク-

3階東病棟 ミ枝

倫理とは、「人間の行いのよしあし」とされており、私たち看護師も日々の業務中で倫理について考える事が多くあります。私も必要な治療を継続させるためとは分かっている、患者はそれを望んでいるのかと考え、悩むことがあります。患者やその家族の思いに沿いながら、患者にとってどのような治療やケアをする事が最善か、精神的苦痛を少しでも取り除けるような方法を医療者と患者、家族で考え、日々の看護に繋げていきたいと思えます。



ラダーⅡ「実践」-事故要因分析-Part①～③を通して

講師：医療安全管理者 副看護部長 長井 砂都美

4階東病棟 中園

医療安全の目的は、①患者の安全と安心、②自らの安全と安心、③仲間の安全と安心であり、医療の質の向上及び安全な医療の提供ができるとされています。しかし、人は誰でも間違いを起こします。だからこそヒューマンエラーを前提とした対策を考えておくことは、とても重要な事であると感じました。

リーダー、エルダーとして、まずは自らが患者の安全やスタッフの安全を守るよう、手順に沿った看護の提供やダブルチェックの徹底など、ヒューマンエラーを前提としながら予防が出来る様、今回の学びを活かしていきたいと思えます。



7/12 ラダーⅢ「管理」-組織論-

講師：副看護部長 長井 砂都美

回復リハビリ病棟 下園



組織論は、以前にも研修を受け、一度学んでいた為、振り返ることができました。当院の理念の中に、ミッションやビジョンが含まれており、理念は、迷った時の判断基準となる重要な意味を持つことが分かりました。組織図では、ライン&スタッフ型組織は理解が難しかったですが、上からの指揮・命令・決定、下からの報告責任とは違い、指導・助言を受けることが出来る体制と理解しました。今後、課題分析方法である「SWOT」分析を用いて、部署内課題を明らかにすることで組織の一員としての役割を果たしていきたいと思えます。

7/4 ラダーⅢ「看護倫理」

講師：外来師長 平 順幸

3階東病棟 中森



倫理とは、「人間の行いのよしあし」とされており、私たち看護師も日々の業務中で倫理について考える事が多くあります。私も必要な治療を継続させるためとは分かっている、患者はそれを望んでいるのかと考え、悩むことがあります。患者やその家族の思いに沿いながら、患者にとってどのような治療やケアをする事が最善か、精神的苦痛を少しでも取り除けるような方法を医療者と患者、家族とで考え、日々の看護に繋げていきたいと思えます。

7/26 トピックス「看・看連携」

講師：地域医療連携室 副室長 瀬戸口 久美子

地域包括ケア病棟 林

今回は看・看連携における退院支援の方法について、瀬戸口副室長より講義を行っていただきました。超高齢化社会が進む中、生活への不安を抱いている患者に対して、必要な支援を病院と在宅でいかに繋いでいくかが大切になってきます。必要な支援に繋げるために情報収集やアセスメントを行い、スクリーニングや多職種とのカンファレンスを活用しながら、患者・家族に関わっていく必要があると改めて学ぶことができました。



院外研修

鹿児島県看護協会研修 「新人看護職員卒後研修教育担当者研修」

回復リハビリ病棟主任 満園



新人看護師は社会人になって3ヵ月から6ヶ月が感情的緊張状態のピークと言われ、この時期をリアリティーショックといいます。できない自分・学生時代と現実の相違・失敗への不安・焦る時期があると思いますが、大丈夫！焦ることはありません。皆さんが思っている事は先輩看護師も通った道です。私は、研修を受講し「自分の枠にあてはめず、個性を大事に」を心に刻み、指導にあたって行きたいと感じました。

鹿児島県看護協会研修 「専門職としての第一歩 ～看護師としての自覚と責任のある行動を考える～」 を受講して

4階東病棟 森木

看護師として働きはじめて半年がたち、今回新人看護師研修を受講しました。この半年間、私が看護師として働き感じたことは、自分が行っていることは看護なのか、ということでした。患者が様々な痛み、不安を伴っているということは理解していながら、忙しいということを理由になかなかその思いに寄り添うことができずにいました。意見交換を行うと、皆感じていることは同じであることに気づく事ができました。また、講義を通して、何かしよう、看護をしよう、と思うのではなく、患者と話をしていく中で一緒に悩んで、患者の意思決定を支援していくことが大切な看護の一つであるということ学んだ。今回学んだことを日々意識して、専門職として自覚と責任のある行動に繋がられるようにしていきたいと思う。



マイブーム

4階東病棟 松下



私にとって、全日本男子バレーボールの試合を観戦することがブームとなっています。今年4月にサンアリーナ川内で合宿と紅白試合があり、又、8月には、合宿と3日間の公開練習が行われましたが、都合が悪く観戦できずに悔しい思いをしました。私の一押しの選手は、昨年5月に所属チームを退団し、プロに転向してドイツのチームでもキャプテンで、かつ、全日本男子バレーボールチームでもキャプテンの柳田将洋選手です。石川選手と共に中心メンバーとして頑張っています。皆さん、是非注目して2人を観て下さい。東京オリンピックまでは合宿があると思うので観戦に行きたいと思っています。私の願いは、2020年東京オリンピックの会場に行き、間近で試合を観戦したいと思っています。

ミニナラティブ 3階東病棟 坂元

気管切開をした患者さん(A氏)の話です。A氏は、元々口数が少ない方でしたが、気管切開後から、発語が困難になり、更に口数が少なくなりました。私は、気管切開の前後を通した患者さんと関わる機会がなかった為、はじめはどのように声を掛ければいいのか分かりませんでした。そんな中、A氏の家族の配慮で、会話がスムーズにできるよう、ホワイトボードを患者の手元に置くようになりました。しかし、ホワイトボードが手元にあっても、A氏は、すぐに文字に頼らず、口元を動かして要件を伝えようとしていました。その姿を見て、声が出し難く、相手に伝わり難くても、A氏は、以前通り声で会話をしたいのではないかという印象を受けました。その為、A氏からナースコールがあった際は、できるだけ声で訴えることができる時間をつくるように努めていきました。なかなか上手く発声するまでには至りませんでしたが、A氏に表情が出て、よく笑いかけてくれるようになりました。このことで、私は、患者が何を大切にしているかを考え、維持できるように介入していく事が大切だという事が分かりました。今後も患者さんの思いに目を向けていきたいなと思います。



編集後記

早いもので、今年度も半年が過ぎ去ろうとしています。新人看護師も、先輩方の指導の甲斐あって、来月には夜勤の独り立ちとなります。これからも温かく支援し、指導する側も受ける側も共に更なる成長を期待しています。(久保)

